

东秦日本语言文化研究丛书之一

青喜 木寿 五纪 郎念 教文 授集

中日语言 文学研究

彭广陆 孙久富 主编
王秋菊 [日] 森山卓郎

中日语言文学研究
青喜 木寿 五纪 郎念 教文 授集
前王郎今上集

万成十月 於北外外賓樓

精孤達

學苑出版社

东秦日本语言文化研究丛书之一

中日语言文学研究

青 木 五 郎 教 授
喜 寿 纪 念 文 集

彭广陆 孙久富 主编
王秋菊 [日] 森山卓郎

學苑出版社

图书在版编目 (C I P) 数据

中日语言文学研究 / 彭广陆等主编. -- 北京 : 学苑出版社, 2016.12

ISBN 978-7-5077-5145-1

I . ①中… II . ①彭… III . ①汉语—文化语言学—对比研究—日语

IV . ① H1-05 ② H36-05

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2016) 第 292454 号

责任编辑: 杨 雷

封面设计: 陈 曦

出版发行: 学苑出版社

社 址: 北京市丰台区南方庄 2 号院 1 号楼

邮政编码: 100079

网 址: www.book001.com

电子信箱: xueyuanpress@163.com

联系电话: 010-67601101 (销售部) 67603091 (总编室)

经 销: 新华书店

印 刷 厂: 北京京华虎彩印刷有限公司

开本尺寸: 787 × 1092 1/16

字 数: 350 千字

印 张: 18.5

版 次: 2016 年 12 月第 1 版

印 次: 2016 年 12 月第 1 次印刷

定 价: 70.00 元



青木五郎教授近影
(摄于2014年12月24日)

编 委 会

主 编: 彭广陆 孙久富 王秋菊 森山卓郎

编 委(按姓氏音序排列)

冯任远(西安外事学院教授)

纪廷许(北京联合大学教授)

李国栋(贵州大学教授)

林翠芳(高知大学教授)

刘岸伟(东京工业大学教授)

刘志宏(静冈产业大学教授)

栾竹民(广岛市立女子大学教授)

彭广陆(东北大学秦皇岛分校教授)

平居谦(平安女学院大学教授)

森山卓郎(早稻田大学教授)

沈国威(关西大学教授)

孙久富(城西国际大学教授)

滕 军(北京大学教授)

王秋菊(东北大学教授)

徐一平(北京外国语大学教授)

续三义(东洋大学教授)

玄宜青(法政大学教授)

朱春跃(神户大学教授)

序 言

岁在乙未，桑梓已降瑞雪，东瀛依旧气朗风和。于此嘉平之月，日本汉学家青木五郎恩师七十七喜寿纪念文集终得付梓，可喜可贺！

文集筹备一年，彭广陆教授为之东奔西走，措资集稿，多有辛劳，本当为文集作序。不料贤弟谦恭，嘱我执笔。余虽感愧悚，有意婉拒，然三思之后，亦觉蒙恩师赐教三十载有余，寸草难报春晖，于此喜贺之际，附上片语，理当义不容辞。惟忧学浅词乏，不能提纲挈领地阐释文集之精髓，又恐只言片语难罄恩师培育之宏恩。权且代笔，以聊表敬贺之意。

扶桑鸿儒青木五郎恩师，号孤蓬。1938年2月3日生于关西大阪富裕之家。然七岁之时，蒙受战灾，父亲不幸病故，自此家道中落，生活饥寒交迫，姐、弟、妹相继夭折。而祸不单行，中学时房屋又为台风所毁，飘无定所，颠沛流离，正所谓：“屋漏偏逢连夜雨”，生活苦不堪言。面对接踵而至的灾祸，令慈悲痛欲绝，加之积劳成疾，不久便撒手人寰。此后恩师与令兄相依为命，食不果腹、衣不蔽体之惨状，非言语所能述。在令兄的照顾下，挨到中学毕业，恩师本想自食其力，谋职以维持生计。然而，社会恃强凌弱，遗孤备受歧视，就业亦是无门可寻。为了生存，承好友之劝慰，恩师勤学苦读，以萤雪之功考入日本高等学府——东京教育大学（筑波大学的前身）。据恩师所言，当时若能迈入国立大学之门，既可栖身之处，亦可半工半读以糊口，足见恩师步入高等学府并非本愿。虽如此，恩师与逆境相搏。自侍日本硕学、汉典研究大家鎌田正教授、内野熊一郎教授、小林信明教授、牛岛德次教授、铃木修次教授左右以来，春秋砥砺，专攻中国古典文学，尤其在《史记》的研究上，通过协助水泽利忠博士撰写鸿篇巨制《史记全注考证校补》（全9卷）之大作，来加深学问之造诣。在训诂注解、疑义考辨上成就斐然，终成学界翘楚。

1973年，经鎌田正教授力荐，恩师正式执教于京都教育大学，专门讲授中国古典文学。尔来40余载，所育学子遍布日本全国。其门生任教于高等学府者不在少数；在小学、初中、高中从教者，更是灿若繁星。

恩师治学严谨，如镂金刻石；且学识渊博，不仅通晓汉和之古典，亦才思俊逸，文采锦绣。如资料所示，恩师著作等身，学跨古今，尤其在《史记》训诂疏上，可谓无人能出其右。恩师倾尽心血所完成的新释汉文大系《史记》列传四部，卷帙浩繁，训读注释缜密，出版伊始，即誉满学界。

师好饮酒,然性情儒雅;每至微醺时,必挥洒笔墨,即兴赋诗。长年来,师或笔耕不辍于书斋之中,或唱和汉诗于酒宴之上,仙风道骨,堪比太白。

20世纪80年代初,经历了浩劫的中国百废待兴。改革开放伊始,恩师便应北京外国语学院(今北京外国语大学)之邀,受日本文部省之遣,作为外国专家,千里迢迢,携夫人及爱子跨海赴任。尔来数载,披星戴月,不辞辛劳,为培育海外学子殚精竭虑,倾尽心血。而余等弟子当时亦是胸怀宏志,蓄势勃发,朝乾夕惕,昼夜苦读。忆往昔,就读于北外的两届研究生与本科生,皆受恩师指点迷津。诸如论文选题、文章构成、考据辨疑、研机综微、引文加注等学问之基础,皆蒙恩师所赐教。正是友谊宾馆孤蓬斋的那盏长夜明灯,助燃了莘莘学子的治学之火。1982年,北京外国语学院鉴于恩师辛勤培育学生之功绩,特授予恩师模范教师之称。

时光荏苒,岁月沧桑,春华秋实,跨海飞虹。当年恩师培育的众多弟子,如今叱咤风云,各领风骚,其中不少已成为学术界、教育界的栋梁之才。真可谓桃李满天下,学子遍四海。

2008年,中国东北大学创建中日文化比较研究所,特聘恩师为名誉所长。恩师不惜花重金,购得大批图书赠予该所,并多次亲躬讲学。记得在该所召开的国际研讨会期间,恩师有感而发,曾赋七律一首:

秋风送我到沈阳,芳馨今传汉卿堂。
以文会友舌锋锐,将和为贵情意长。
老骥伏枥思千里,雏凤展翅膀八方。
占得菊花重阳节,赤县扶桑两漂香。

“雏凤展翅膀八方”一句,寓意为:弟子遍布八方,展翅翱翔于学问之苍空;“赤县扶桑两漂香”一句,则说明恩师所付出的劳苦终结硕果,恩师的弟子们正挥斥方遒,活跃于中日两国。

近年来,世界风云多变,中日关系蒙尘,然恩师的淳厚之儒德与严谨的治学之风,弟子们却常怀于心。知恩图报乃是中华之传统,此番所汇文集诸稿,内容虽不一,然皆旨在弘扬恩师之学,为中日两国文化交流而增彩。恩师迎来喜寿,豪气不减,老当益壮,故诗中有“老骥伏枥思千里”一语。

余虽不才,适逢纪念文集付梓之际,欣然聊吟《献天寿令》一首,谨表庆贺及谢忱之意,并以此为序终。

赤县扶桑虽隔,施教两府德高。仙风道骨凌九霄,恭献天寿灵桃。
寸草三春晖难报,圆月皓,往事涌潮。梅樱沐雨绽枝梢,遥祝其乐陶陶。

孙久富

2015年岁末于东京

青木五郎教授年譜

1. 学歴

- 1950年3月 静岡県榛原郡川崎町立川崎小学校卒業
1953年3月 静岡県榛原郡川崎町立川崎中学校卒業
1956年3月 静岡県立榛原高等学校卒業
1957年4月 東京教育大学文学部漢文学科入学
1961年3月 東京教育大学文学部漢文学科卒業
1961年4月 東京教育大学大学院文学研究科修士課程中国古典学専攻入学
1964年3月 東京教育大学大学院文学研究科修士課程中国古典学専攻修了(文学修士)
1964年3月 東京教育大学大学院文学研究科博士課程中国古典学専攻入学
1967年3月 東京教育大学大学院文学研究科博士課程中国古典学専攻単位修得満期退学

2. 職歴

- 1961年4月 私立巣鴨学園非常勤講師(国語)(1967年3月まで)
1964年4月 私立目黒星美学園非常勤講師(漢文)(1967年3月まで)
1967年4月 国立・東京工業高等専門学校講師(国語)(1971年3月まで)
1971年4月 国立・東京工業高等専門学校助教授(国語)(1973年3月まで)
1972年4月 東京教育大学文学部非常勤講師(漢文学)(1973年3月まで)
1973年4月 京都教育大学教育学部助教授(漢文学)(1984年3月まで)
1974年4月 同志社大学商学部非常勤講師(中国語)(1996年3月まで、但し81、82年度は海外出張のため中断)
1981年4月 中華人民共和国北京外国語学院の招聘により言語の共同研究のため出張。日本語学部で院生・学部生の日本語教育・論文指導に携わる(1982年3月まで)
1982年4月 中華人民共和国北京外国語学院の招聘により言語の共同研究のため出張(1983年4月まで)。職務は同上
1984年4月 京都教育大学教育学部教授(漢文学)(2000年3月まで)
1986年7月 龍谷大学文学部非常勤講師(漢文学)(1991年3月まで)
1989年6月 香川大学教育学部非常勤講師(漢文学特殊講義、「和漢比較文学研

- 究」集中講義(1989年7月まで)
- 1990年4月 奈良女子大学文学部非常勤講師(「中国文学講読」、1992年度は大学院「中国文学特論」担当)(1996年3月まで)
- 1993年4月 広島大学教育学部非常勤講師(「東洋文学と日本文学」)集中講義(1994年3月まで)
- 1993年4月 龍谷大学文学部非常勤講師(「中国文学Ⅱ」、大学院「中国文学特殊研究」担当)(2000年3月まで)
- 1999年4月 桜花学園大学人文学部非常勤講師(「漢文学概説」)集中講義(2000年3月まで)
- 2000年3月 京都教育大学教育学部名誉教授
- 2000年4月 桜花学園大学人文学部比較文化学科教授(2002年3月まで)
- 2000年10月 京都教育大学教育学部非常勤講師(「漢文学演習Ⅴ」)集中講義(2001年3月まで)
- 2000年10月 香川大学教育学部非常勤講師(「中国古典特殊講義」)集中講義(2001年3月まで)
- 2004年4月 二松学舎大学文学部特別招聘教授(大学院担当)(2005年10月まで)
- 2007年4月 群馬県立女子大学大学院非常勤講師(「日本語日本文学特講」)集中講義(2008年3月まで)
- 2007年12月 中華人民共和国東北大学中日文化比較研究所名誉所長(現在に至る)
- 2008年4月 相愛大学人文学部非常勤講師(「日本語文章講読」ほか)(現在まで)
- 2008年9月 中華人民共和国東北大学外国語学院招聘教授(「中日比較文学」「漢文訓読法」ほか)(2008年10月まで)
- 2010年9月 中華人民共和国東北大学外国語学院招聘教授(「研究方法論Ⅰ、Ⅱ」)(2010年9月まで)
- 2011年4月 相愛大学人文学部客員教授(現在まで)
- 2012年9月 中華人民共和国東北大学外国語学院招聘教授(「中日比較文学」)(2012年11月まで)

3. 学会及び社会における活動

- 1961年4月 大塚漢文学会(1998年より中国文化学会に改称)正会員・理事
- 1967年4月 日本中国学会正会員(現在に至る)・評議員(2008年3月まで)
- 1971年4月 国立工業高等専門学校入学試験問題作成委員(国語)(1973年3月まで)
- 1973年4月 京都教育大学国文学会正会員(現在に至る)。1994年度より1999年度まで会長
- 1975年4月 全国漢文教育学会正会員・理事(現在に至る)
- 1984年4月 文部省大学入試センター教科専門委員(国語)(1986年3月まで)
- 1985年10月 第1回全国漢文教育学会大会(通算第30回)の開催校を引き受ける

- (於京都教育大学)
- 1988 年 10 月 大阪大学懐徳堂古典講座講師(「漢詩を読む」「莊子を読む」「老莊を読む」)(1993 年 3 月まで)
- 1991 年 9 月 中国杭州大学で行われた“漢籍と中外文化国際交流討論会”で、「『史記』の日本への伝来と受容」について発表
- 1991 年 10 月 朝日カルチャーセンター講座講師(大阪)(「中国古典鑑賞講座」)(1993 年 9 月まで)
- 1993 年 9 月 朝日カルチャーセンター講座講師(大阪)(「史記の世界を読む」)(現在まで)
- 1994 年 4 月 大阪大学懐徳堂古典講座講師(「漢詩—花鳥風月詠—を読む」)(1996 年 3 月まで)
- 1994 年 6 月 大塚漢文学会大会の漢文教育シンポジウム「『史記』へのこだわり—項羽本紀」で、コメンテーターをつとめる
- 1995 年 8 月 中国陝西師範大学で行われた“司馬遷生誕 2140 周年記念国際学術討論会”で、「司馬貞の史学思想」について発表
- 1996 年 7 月 全国漢文教育学会主催・第 12 回漢文教育研修会教育講座講師(「老子」「莊子」)
- 1996 年 8 月 1996 年度京都府教育職員免許法認定講習講師(漢文学)
- 1997 年 10 月 北京師範大学で行われた“第 1 回漢語文教育国際討論会”で、「日本における漢文教育—教材を通してみた中国の文言文教育との比較」について発表
- 1998 年 5 月 第 14 回全国漢文教育学会大会で、「中国の『語文』教科書中の文言文教材について」を発表
- 1998 年 6 月 中国文学学会大会のシンポジウム「中国の知識人像—伝統と改革—」で、パネリストとして「新儒家における伝統と革新—馮友蘭を中心として—」を発表
- 1998 年 10 月 大阪大学懐徳堂古典講座講師(「離騷」を読む)(1999 年 3 月まで)
- 1999 年 6 月 第 15 回全国漢文教育学会大会の開催を引き受け、「漢文演習 I」の授業を公開(於京都教育大学)
- 1999 年 9 月 全国漢文教育学会主催・第 2 回京都漢文教育研修会の開催並びに講師(史記「刺客列伝を読む」)(於京都教育大学)
- 1999 年 11 月 橿原市立図書館主催「著者と語る会」で、「史記—史伝の面白さ」について講演
- 2000 年 6 月 京都教育大学国文学会で、「史記と私」と題して講演
- 2000 年 10 月 朝日カルチャーセンター講座講師(名古屋)(「和漢比較文学への招待」)
- 2003 年 6 月 中国文学学会大会で、「司馬遷の“悲”しみ」と題して発表
- 2004 年 8 月 二松学舎大学公開講座で、「“人皆一死あり”—司馬遷の死生観」と題

して講演

- 2004 年 8 月 全国漢文教育学会主催・第 20 回漢文教育研修会講師(「史記」)
- 2004 年 10 月 千葉県高等学校教育研究会秋季研究協議会で、「東アジア(中国、台湾、韓国、日本)における古典(漢文)教育について」と題して講演
- 2005 年 6 月 全国漢文教育学会大会で、「韓国の漢字・漢文教育について」と題して発表
- 2005 年 6 月 中国語学会大会のシンポジウム「東アジアにおける漢文(古典)教育」で、コメンテーターをつとめる
- 2006 年 10 月 中国北京大学で行われた『日本学国際討論会』で、「菊花の日中比較文化誌—重陽節に因んで—」と題して講演
- 2007 年 4 月 史記と漢詩の旅(韓城、西安)訪中団の団長をつとめる
- 2008 年 9 月 中国東北大学で行われた『中日文化比較研究国際討論会』で、「東北大学発信の東アジア文化圏における共生モデルの構築」と題して基調講演
- 2010 年 9 月 中国東北大学で行われた『第 2 回中日文化比較研究国際討論会』で、「日本における『史記』の受容—“四面楚歌”のくだりをめぐって」と題して発表
- 2012 年 6 月 中国語学会大会でのシンポジウムで、「教材としての『史記』」と題して基調講演
- 2012 年 9 月 中国東北大学で行われた『第 3 回中日文化比較研究国際討論会』で、「東アジア漢字文化圏における漢字・漢文教育を考える」と題して基調講演
- 2012 年 9 月 中国遼寧大学で行われた国際学術討論会『中日邦交正常化 40 年回顧と展望』で、「日中文化交流が生み出した新詩—《漢俳》」と題して基調講演
- 2013 年 6 月 『前四史全注全訳』(中国深圳市、同編委会)学術顧問
- 2014 年 1 月 京都市教育委員会主催の「国語科指導講座」で「文学としての『史記』」と題して講演

青木五郎教授业绩一览表

I. 著 書

I-1 [史記関係]

史記会注考證校補(卷3-卷9)	史記会注考證校補刊行会	1957年3月-1970年10月	協力
史記・十八史略	文研出版	1976年6月	
中国の文学論(「司馬遷の發憤著書説一不遇と文学」を分担執筆)	汲古書院	1987年9月	分担執筆
標点本・史記選(春秋・戦国編)	白帝社	1988年4月	共著
標点本・史記選(楚漢編)	白帝社	1988年4月	共著
中日漢籍交流史論(「《史記》在日本」を分担執筆)	杭州大学出版社	1991年11月	分担執筆
史記正義の研究	汲古書院	1994年2月	共著
歴史Ⅰ 史記上(漢詩・漢文解釈講座第8巻)	昌平社	1995年5月	編著
司馬遷与史記論集第三輯(「司馬貞の史学思想」を分担執筆)	陝西人民出版社	1996年10月	分担執筆
史記の辞典	大修館書店	2002年7月	共編著
史記十一(列伝四)(新釈漢文大系 91)	明治書院	2004年6月	
史記十二(列伝五)(新釈漢文大系 92)	明治書院	2007年9月	
史記十三(列伝六)(新釈漢文大系 115)	明治書院	2013年12月	
史記(列伝三)(新書漢文大系 36)	明治書院	2014年4月	
史記十四(列伝七)(新釈漢文大系 120)	明治書院	2014年6月	
史記(列伝四)(新書漢文大系 37)	明治書院	2016年10月	

I-2 [辞典関係]

日本国語大辞典(全20巻)	小学館	1972年12月-1976年3月	協力
漢詩名句辞典	大修館書店	1980年6月	分担執筆
広漢和辞典上・中・下巻	大修館書店	1981年11月	分担執筆
中国思想辞典	研文出版	1984年4月	分担執筆
大漢和辞典(修訂版)(全13巻)	大修館書店	1984年4月-1986年4月	協力
くわしい小学漢和辞典	文英堂	1987年1月	協力

中国語学習ハンドブック	大修館書店	1988 年 6 月	分担執筆
大漢語林	大修館書店	1992 年 4 月	分担執筆
中国成語辞典	東方書店	1993 年 11 月	分担執筆
中国神話・伝説大事典	大修館書店	1999 年 4 月	協力
大漢和辞典補巻	大修館書店	2000 年 4 月	分担執筆
小学漢字辞典	文英堂	2002 年 2 月	共著

I-3 [漢字・漢文教育関係]

古典漢文の新研究	三省堂	1966 年 4 月	共著
古典文学選	桜楓社	1970 年 5 月	共著
漢字の基礎演習	文英堂	1982 年 1 月	共著
漢字の徹底演習	文英堂	1982 年 1 月	共著
漢文の基礎	啓林館	1983 年 3 月	監修
力をつける漢文(習得編)	数研出版	1991 年 2 月	監修
力をつける漢文(読解編)	数研出版	1991 年 2 月	監修
話題源古文・漢文	東京法令出版	1991 年 5 月	分担執筆
基礎学習システム「必修漢文」	数研出版	1995 年 2 月	監修
クリアカラー「国語便覧」	数研出版	2001 年 12 月	監修
理解しやすい漢文	文英堂	2003 年 10 月	共著

I-4 [その他]

中国哲学史下(「馮友蘭一哲学界の“不倒翁”」を分担執筆)	ペリカン社	1987 年 7 月	分担執筆
中国思想の流れ上(「内聖外王の思想家—郭象」を分担執筆)	晃洋書房	1996 年 5 月	分担執筆
老荘思想を学ぶ人のために(「文学としての『老子』『莊子』」を分担執筆)	世界思想社	1997 年 10 月	分担執筆
現代中国語で読む古典	白帝社	2000 年 2 月	
修士論文・卒業論文要旨集	京都教育大学国文学科漢文学研究室	2000 年 2 月	編著
系統的に学ぼう中国語Ⅱ	白帝社	2002 年 4 月	共編著
青木辰男遺作集「断声—ある夜鳴きそば屋の詩—」	牧歌舎	2015 年 3 月	編著

Ⅱ. 論文

Ⅱ-1 [史記関係]

鄒誕生史記音佚文	『史記会注考證校補八』	1961年3月	共著
劉伯莊史記音義佚文	『史記会注考證校補八』	1961年3月	共著
陸善經史記注佚文	『史記会注考證校補八』	1961年3月	共著
史記英房抄	『史記会注考證校補八』	1961年3月	共著
「史記索隱」における劉伯莊「史記音義」の投影について	漢文学会会報第23号	1964年3月	
史記の読み方—項羽本紀をめぐって—	高校教育第21巻第12号(実教出版社)	1969年12月	
「史記索隱」論考	東京高専研究報告書第1号	1970年3月	
単索隱本	『史記会注考證校補九』	1970年10月	共著
鄒誕生史記音佚文・劉伯莊史記音義佚文・陸善經史記注佚文拾遺	『史記会注考證校補九』	1970年10月	共著
史記注輯佚文の資料的価値について—劉伯莊「史記音義」輯佚文の場合—	東京高専研究報告書第2号	1971年3月	
史記教材の目標	『漢文教育の理論と指導』(大修館書店)	1972年2月	
宮内庁書陵部史記古鈔本范雎蔡沢列伝の書入れ校記について	東京高専研究報告書第3号	1972年3月	
史記教材の扱い方—「漢楚の興亡」を中心として—	漢文教室第114号(大修館書店)	1975年5月	
司馬貞の史学—「史記索隱」の史学史上の位置について—	『加賀博士退官記念中国文史哲論集』(講談社)	1979年3月	
史記に書かれた人間像—その背後にあるもの—	『史記の世界』(尚学図書)	1986年5月	
『史記桃源抄』の「項羽本紀」を読む	東書国語	1989年11月	
司馬遷の伝説	新釈漢文大系季報第78号(明治書院)	1990年2月	
『史記』における〈怒み〉について	『鎌田正博士八十寿記念漢文学論集』(大修館書店)	1991年1月	
司馬遷の祠墓と班固の墓	しにかVol. 8No. 6	1997年5月	
徐広「史記音義」の字音資料輯佚	京都大学紀要A第93号	1998年9月	共著
なぜ項羽は烏江を渡らなかったか	数研国語通信「つれづれ」第3号	2004年12月	
伍子胥列伝「掘平王墓、出其尸、鞭之三百」について	新釈漢文大系季報第103号	2005年7月	
水澤利忠博士を偲ぶ—「史記会注考證校補」のこと—	中国文化第72号	2014年6月	
「史記」全巻の訳注完結に寄せて	聖教新聞	2014年9月	

Ⅱ-2 [漢字・漢文教育](日本・中国大陆・中国台湾・韓国)

漢和辞典の使い方	言語第 9 巻第 5 号(大修館書店)	1980 年 5 月
中国における国語の入学試験問題管見	京都教育大学国文学会誌第 18 号	1983 年 6 月
[辞書と国語教育]漢和辞典の使い方	国語教室第 18 号(大修館書店)	1983 年 12 月
中国における国語教育の現状について	実践国語情報第 1 巻第 3 号(教育出版センター)	1985 年 6 月
日中両国国語共通教材の中国における教材研究の紹介	京都教育大学教育研究所所報第 30 号	1984 年 3 月
中国の古典教育	実践国語情報第 1 巻第 7 号(教育出版センター)	1985 年 6 月
初級中学国語教材「『論語』六則」について	京都教育大学国文学会誌第 20 号	1985 年 6 月
現代中国における古典教育について	新しい漢字漢文教育創刊号(全国漢文教育学会誌)	1985 年 10 月
中国における古典教材研究(1)—[塞翁失馬]—	漢文教室第 155 号(大修館書店)	1986 年 10 月
中国における古典教材研究(2)—[智子疑隣]—	漢文教室第 157 号	1987 年 5 月
中国における古典教材研究(3)—[涼州詞]—	漢文教室第 158 号	1987 年 11 月
中国における古典教材研究(4)—[漁家傲](范仲淹)—	漢文教室第 160 号	1988 年 5 月
中国における古典教材研究(5)—[鴻門の会]—	漢文教室第 162 号	1989 年 2 月
中国における古典教材研究(6)—[孟子]二章—	漢文教室第 164 号	1989 年 11 月
『高級中学課本・語文』における「鴻門宴」の扱いについて—日中国語教材比較研究—	京都教育大学紀要 A 第 89 号	1996 年 9 月
中国の小学校における識字教育	中国図書第 10 巻第 3 号(大修館書店)	1997 年 3 月
中国の小学校における識字教育(続)	中国図書第 10 巻第 4 号	1997 年 4 月
日本における漢文教育について—教材を通じてみた中国の文言文教育との比較—	新しい漢字漢文教育第 28 号	1998 年 5 月
東アジア(中国大陸、中国台湾、韓国、日本)における古典(漢文)教育について	国語教育—研究と実践(千葉県高等学校教育研究会国語部会編)	2005 年 3 月
韓国における漢字漢文教育	新しい漢字漢文教育第 42 号	2006 年 5 月
東アジア漢字文化圏における漢字・漢文教育を考える	第 3 回中日文化比較研究国際討論会資料(中国・沈陽、東北大学)	2012 年 9 月

Ⅱ-3 [日中比較文化論・比較文学論]

和漢比較文学ノート(1)「故郷をいつれの春か行きて見む云云」(『源氏物語・須磨』)の典拠ほか)	京都教育大学国文学会誌第 22 号	1987 年 6 月
和漢比較文学ノート(2)「野ざらし紀行」冒頭文及び富士川捨子の条をめぐって	京都教育大学国文学会誌第 23 号	1989 年 6 月
『唐物語』第十八話<玄宗、楊貴妃物語>について—和漢比較文学ノート(3)—	京都教育大学紀要 A 第 90 号	1997 年 3 月
「鶯の谷より出づる声なくは云々」(古今和歌集・春上)の歌について—和漢比較文学ノート(4)—	中国文化第 53 号	1997 年 6 月

中国の俳句《漢俳》のことなど	京都教育大学同窓会報	1998 年 10 月
日本における『史記』の受容―「四面楚歌」のくだりをめぐって	漢文教室 192 号(大修館書店)	2006 年 5 月
菊花の日中比較文化誌―重陽の節句に因んで―	北京大学日本学研究国際検討会資料匯編	2006 年 10 月
以东北大学为信息基地共同构筑东亚文化圈之共生模式	中日文化比較研究論集第一輯(中国・東北大学出版社)	2009 年 7 月

Ⅱ-4 [その他]

司馬遷の中国文化史上における位置と影響(季鎮淮原著)	『史記』(世界文学大系)(筑摩書房)	1962 年 7 月	翻訳
郭象「莊子注」序論	京都教育大学国文学会誌第 13 号	1977 年 3 月	
郭象「莊子序」の真偽問題について	京都教育大学国文学会誌第 14 号	1979 年 5 月	
郭象「莊子序」私箋	京都教育大学紀要 A 第 64 号	1979 年 9 月	
張保華「『台湾小説選』を評す」	京都教育大学国文学会誌第 15 号	1980 年 5 月	共訳
馮友蘭著作目録初稿―付関係資料一覧	京都教育大学国文学会誌第 17 号	1982 年 12 月	
故事成語・ことわざの中訳法について	京都教育大学紀要 A 第 64 号	1984 年 3 月	共著
中国の大学で卒業論文を指導して―北京外国語学院日本語学部の場合―	京都教育大学教育研究所所報第 30 号	1984 年 3 月	
中国古典を中国語で読むための七つ道具―『史記』	中国語第 452 号(内山書店)	1997 年 8 月	
現代に生きる古典	TECC mate 創刊号(ベネッセコーポレーション)	1998 年 9 月	
夜鳴きそば詩人の肖像	日本経済新聞	2016 年 4 月	

Ⅲ. 連 載

Ⅲ-1 [古詩文今用]

雑誌『中国語』(大修館書店)に、1986 年 4 月「古詩文今用[柳暗花明又一村]」(第 316 号)より、1988 年 3 月「古詩文今用[深巷有人叫卖花]」(第 339 号)まで、24 回連載。

Ⅲ-2 [古典読解講座]

雑誌『中国語』(内山書店)に、1997 年 3 月「[古典読解講座]塞翁失馬」(第 447 号)より、1999 年 2 月「[古典読解講座]赤壁之战」(第 470 号)まで、24 回連載。

* 上記の連載は、Ⅱ-4[その他]の『現代中国語で読む古典』に収録。

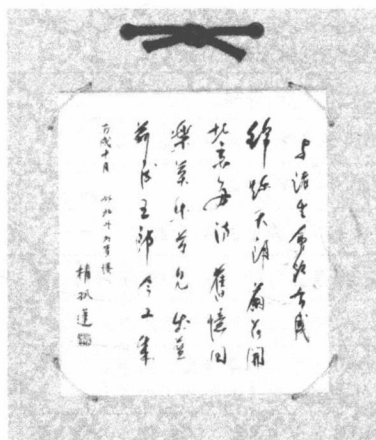
青木五郎教授诗作二首

与诸生会饮有感

精 孤蓬

锦秋天朗菊花开，
北京每访旧忆回。
乐莫乐兮见出蓝，
前度五郎今又来。

丙戌十月于北外外宾楼



精:青木（姓）的合字。造字。

孤蓬:青木的雅号。鲍照《芜城赋》云，“孤蓬自振，惊沙坐飞。”

菊花:时近重阳节，又闻菊花是北京市花。

旧忆:我自 1981 年到 1983 年在北京外国语学院任教。

乐莫云云:《楚辞》云：“悲莫悲兮生别离，乐莫乐兮新相知。”《孟子》云，“君子有三乐云云，得天下之英才教育之，三乐也。”

出蓝:《荀子》云：“学不可以已，青取之于蓝，青于蓝。”

前度云云:《刘禹锡诗》云：“种桃道士归何处，前度刘郎今又来。”。

丙戌:西历 2006 年。